

| 著書、学術論文等の名称 | 単著 共著 の別 | 発行又 は発表 の年月 | 発行、発表 雑誌、発表 学会の名称 | 概 要 |
|--|----------------|-------------------|--|---|
| 1 (著書) 臨床栄養学総論(サクセス管理栄養士・栄養士養成講座) | 共著 | 2024 Sep. | 第一出版 | 管理栄養士養成のための教科書(総ページ168) 高橋加代子, 齋藤瑛介, 調所勝弘. 担当部分: 栄養ケアマネジメント、栄養補給法(担当ページ31~78) |
| 2 (著書) 疾患・病態別臨床栄養学(サクセス管理栄養士・栄養士養成講座) | 共著 | 2024 Sep. | 第一出版 | 管理栄養士養成のための教科書(総ページ136) 齋藤瑛介, 工藤美香, 高橋史江. 担当部分: 低栄養、栄養代謝性疾患、消化器疾患(担当ページ1~49) |
| 3 (学術論文) High leafy and root vegetables and high rice dietary patterns were associated with primary and secondary bile acid levels in the feces 《筆頭著者・責任著者》 | 共著 | 2025 Jan. | Scientific Reports Vol. 15 pp. 2092 | 食習慣と糞便中胆汁酸濃度間の関係性を横断的に評価し、葉物と根菜類の高い摂取は腸内細菌による一次から二次胆汁酸への変換を阻害する可能性が示唆された。Yosuke Saito, Toyoaki Sagae. 担当: 概念化、方法論、調査、解析、執筆、監督 |
| 4 (学術論文) 非結核性抗酸菌症患者に対するエネルギー充足率を指標とした栄養指導の有効性 | 共著 | In press | 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 | 非結核性抗酸菌症患者において、エネルギー充足率を指標とした早期の栄養指導の重要性が示唆された。野間智美, 尾下豪人, 坂本藍, 神田直人, 齋藤瑛介, 池上靖彦, 山岡直樹. 担当: 方法論、執筆 |
| 5 (学術論文) Defecation status, intestinal microbiota, and habitual diet are associated with the fecal bile acid composition: a cross-sectional study in community-dwelling young participants. 《筆頭著者・責任著者》 | 共著 | 2023 Mar. | European Journal of Nutrition Vol. 62 pp. 2015-2026 | 大腸癌の発症および再発に関連する腸管内胆汁酸代謝に影響を及ぼす可能性がある食事、排便、腸内細菌叢に関する因子について横断的に評価し、明らかにした。Yosuke Saito, Toyoaki Sagae. 担当: 概念化、方法論、調査、解析、執筆、監督 |
| 6 (学術論文) Saltiness and hedonic liking rating of miso soup associated with conscious salt reduction levels: a consumer acceptance study with gradual salt reduction. 《筆頭著者・責任著者》 | 共著 | 2023, Feb. | Asian Journal of Food Research and Nutrition Vol. 2 pp. 52-63 | 味噌汁の塩分濃度を密かに段階的に下げることで、消費者の受容性を調査した。みそ汁に対する好みの変化は、減塩意識レベルと関連することを明らかにした。Yosuke Saito, Nozomi Kobiyama, Masahiro Sagara. 担当: 概念化、方法論、調査、分析、執筆、監督 |
| 7 (学術論文) Greater consumption of noodle is associated with higher serum phosphorus levels: a cross-sectional study on healthy participants. 《筆頭著者》 | 共著 | 2021 Jan. | Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition Vol. 68 pp. 78-85 | 血清リン濃度に影響を及ぼす食事性因子を横断的に調査し、主食の消費パターンは腎臓病患者の食事療法に有用である可能性が示唆された。Yosuke Saito, Masae Sakuma, Yuri Narishima, et. al. 担当: ヒト試験・実験・解析・執筆 |
| 8 (学術論文) Habitual confectionery intake is associated with serum phosphorus levels: A cross-sectional study on healthy subjects. 《筆頭著者》 | 共著 | 2019 Feb. | The Journal of Medical Investigation Vol. 66 pp. 134-140 | 血清リン濃度に影響を及ぼす食事性因子を横断的に調査し、菓子類の摂取頻度は腎臓病患者の食事療法に有用である可能性が示唆された。Yosuke Saito, Masae Sakuma, Yuri Narishima, et. al. 担当: ヒト試験・実験・解析・執筆 |
| 9 (発表) 大腸癌一次予防戦略の構築に向けた、腸管内胆汁酸代謝に関わる習慣的食事パターンの探索 | 共同 | 2025 Jan. | 第28回日本病態栄養学会 | 上記3の論文に関する発表。 齋藤瑛介, 寒河江豊昭 |
| 10 (発表) スプレッドライ法による粉体濃厚流動食に含まれるたんぱく質のバイオアビリティの評価 | 共同 | 2025 Jan. | 第28回日本病態栄養学会 | 濃厚流動食の粉末化は、たんぱく質の生体利用性を低下させない可能性がある。阿南まどか, 佐塚正樹, 寒河江豊昭, 齋藤瑛介 |
| 11 (発表) 非結核性抗酸菌症患者に対するエネルギー充足率を指標とした栄養指導の有効性の検討 | 共同 | 2024 Nov. | 第71回日本呼吸器学会 | 上記4の論文に関する発表。野間智美, 尾下豪人, 宮本小瑠子, 神田直人, 坂本藍, 池上靖彦, 山岡直樹, 齋藤瑛介 |
| 12 (発表) 糞便中胆汁酸組成と、食事、排便状況および腸内細菌叢との関係性 | 共同 | 2022 Jul. | 第26回腸内細菌学会学術集会 | 上記5の論文に関する発表。 齋藤瑛介, 寒河江豊昭 |
| 13 (競争的資金) 大腸癌一次予防戦略の確立に向けた、腸管内胆汁酸代謝に与える野菜摂取の影響 | 研究代表者 | 2025 ~ 2028 | 日本学術振興会 科研費若手研究 | 【25K21091】野菜の積極的摂取は、腸管内胆汁酸代謝を変更することができるかを明らかにする。 |
| 14 (競争的資金) 腸管内胆汁酸代謝に影響を及ぼす食事・生活性因子の解明 | 研究代表者 | 2019 ~ 2023 | 日本学術振興会 科研費若手研究 | 【19K20148】大腸癌や生活習慣病発症に関わる腸管内胆汁酸代謝に影響を及ぼす生活・食事因子を明らかにする。 |